

第1章 きょうどうってなに？

知ってほしい「協働」の意味



「きょうどう」という言葉には、複数の漢字が使われます。

複数の人や団体が事にあたるという意味で全ての字が共通していますが、なかでも、市民と市または市民同士などが、それぞれの役割と責任に基づいて、互いに尊重しながら、協力し合うことを「協働」といいます。

どうして協働が必要なの？

地方分権の進展に伴い、住民に最も身近な行政機関として市町村の役割が増大し、地域の意思と責任に基づく自主・自立のまちづくりが求められています。

地域課題や多様化する市民ニーズにきめ細かく的確に対応し、豊かな市民生活の実現を推進するため、市民の発想や想像力、得意分野を活かしながら、行政と市民が力を合わせて「協働」のまちづくりをすすめる必要があります。



「協働」はまちづくりの基本理念

まちづくり基本条例では、「市民と市がそれぞれの役割と責任を担い、互いに力を合わせてすすめる協働のまちづくり」を基本理念としています。

「協働」に取り組むうえで大切なこと

帯広市では、次の3つの視点を大切にして、市民協働の取り組みをすすめています。

対等のパートナー

市民と行政は、サービスを受ける側と、提供する側でも上下の関係でもない、ともにまちづくりを行う、対等のよきパートナーです。それぞれが役割を担い、補い合いながら力を合わせていくことが重要です。

相互理解と共通認識

対等のパートナーであるために、市民と行政は、情報提供や対話などを通して意思の疎通を図り、お互いの特性、目的や目標について理解を深める必要があります。

自主性・主体性の尊重

市民は、これまでも自らの意思と責任のもとでさまざまな活動を展開し、まちづくりを支えてきました。市は、こうした市民の自主性・主体性を尊重し、これまで市民の皆さんが高めてきた知恵や技術、経験、行動力を活かした、市民協働のまちづくりに取り組んでいきます。